

おしづき館

No.99

発行 おしづき館
代表 青木和子
松本牧の原 1047
416
TEL 047 311-0886



一月十五日(土) 市民会館202室で
第十二回総会を開きました。

二〇〇四年度 活動報告

- 定例会
- 会報発行
- 行政・市議会への働きかけ
- 市民への働きかけ
- 図書館見学
- 近隣グループとの交流
- 講演会・勉強会
- 文化活動

以上のような計画のもとに、

左記の活動をしました。

- 一月十七日(土) 第11回総会
- 二月二十四日(火)

社会教育認定団体認定手続

- 二月二十八日(土) 定例会

「憲法記念日の集い」・映画「草の乱」上映会の共催について

「松元ヒロ・ソロ・ライブ」(独自企画)開催について
図書館費予算内訳について

- 三月一日(月)～三日(水)

市議会議員訪問

- 三月九日(火)～十四日(日)

「秩父の版画と写真展」共催(文化ホール)・「草の乱」上映に向けての事前学習

- 三月二十七日(土) 定例会

「憲法記念日の集い」について
「松元ヒロ・ライブ」について
図書館見学について

市議会議員訪問の報告

- 四月十七日(土) 定例会

「松元ヒロ・ライブ」準備会
浦安・松戸の図書館見学について

- 五月三日(月・祝)

「憲法記念日の集い」天木直人氏講演会(市民会館ホール)45団体共催

- 五月八日(土)

浦安・松戸の図書館見学
参加・大人28名(松戸市議3名・近隣の市議3名を含む)と、子供10数名

- 五月十五日(土) 定例会

図書館見学の報告

- 五月二十三日(日)

「松元ヒロ・ライブ」準備会
「松元ヒロ・ソロ・ライブ」

参加14名

○6月19日(土) 定例会

「松元ヒロ・ソロ・ライブ」
反省会

NHK-TV「視点論点」①図書館が日本を救う②図書館から地域へ(常世田良氏)ビデオ上映

○7月24日(出) 定例会

「図書館友の会全国連絡会」について

NHK-TV「図書館をもっと身近に」ディスカバー図書館(パネリストとして、鳥取県知事片山善博氏・浦安市教育委員会常世田良氏等が参加)ビデオ上映

○9月18日(土) 定例会

9月市議会決算審査特別委員会傍聴の報告

指定管理者制度などについて
「草の乱」上映会について

○10月16日(土) 定例会

国立国際子ども図書館見学について

○11月7日(日)

「古文書とは？」(伊藤和子さん)

○11月7日(日)

「草の乱」上映会開催
(市民会館ホール)

○11月11日(木)

国立国際子ども図書館見学
建物ガイドツアー
参加3名

参加3名

○11月16日(火)

国立国際子ども図書館見学
図書館ガイドツアー
参加2名

参加2名

○12月18日(土) 定例会

12月市議会傍聴の報告
国立国際子ども図書館見学の報告

「素語ー金子みすずの詩」
(吉原里絵さん)

(吉原里絵さん)

○会報発行

90号(2月2日)

第11回総会報告

91号(3月20日)

アンケート結果報告

92号(6月10日)

浦安・松戸の図書館見学記

93号(7月15日)

図書館費総額および図書等購入費・おはなしキャラバン関係費の年度別推移

県内公立図書館サービスマン指標

投稿「松戸の図書館に思ふ事」

94号(8月15日)

「松元ヒロ・ソロ・ライブ」

感想集

95号(11月25日)

各地の図書館見聞記

「図書館友の会全国連絡会」

設立について

96号(11月30日)

決算審査特別委員会傍聴報告
講演会「教育基本法と図書館」



アンケートより

97号(12月10日)

国立国際子ども図書館見学記

98号(12月25日)

「古文書を愉しむ」(伊藤和子さん)

投稿「ライラクからの報告」

「雑感」

この他、随時、市議会本会議・

教育経済常任委員会の傍聴、図書

館など担当部署訪問、市議会・行

政・市民・近隣グループなどへの

会報配布・送付、事務局会議を行

いました。

二〇〇五年度活動計画

○行政・市議会への働きかけ

○市民への働きかけ

○図書館見学

○近隣グループとの交流

○講演会・勉強会

○文化活動

○市内他団体とのイベント共催

○会報発行

○定例会

第三土曜日PM.2時～5時

会場 市民会館・市民センター

会費 年間千円

事務局 代表 青木和子

副代表 西山怜子

書記 浅山早智子

会計 吉原里絵

菊地志枝

会計監査 大久保ヒロ子

鎌瀬容子

現在、「おいしい図書館」の会員

数は90名、会報は約30部を送付・

配布しています。図書館に関心を

持っておられる方々が、私達の地

味な活動にも目を向けてくださる

事を大変有難く思います。

2004年度は、図書館費内訳で、お

はなしキャラバン関係費がついに

図書等購入費を上回ってしまっ

たという大ショックのうちに始ま

りました。

会報93号に折れ線グラフで示

した通り、この10年間図書等購入費

がほぼ横這いだったのに対し、キ

ャラバン関係費は、50%以上増加

しています。

同時期の松戸市役所各部署にお

ける経費の伸び率は、平均4.2%(

12月市議会本会議での名木議員の

質問に対する財務本部長の答弁)

ですから、キャラバン関係費の伸

び率は異常としか思えません。
(↓後へつづく)



お～い図書館 2004年度会計報告 2004年1月～12月

【収入】

項目	金額	備考
繰越金	¥133,249	2003年度繰越金
会費・寄付	¥80,240	会員67名
松本ヒロさんライブ収入	¥147,200	チケット売上、週刊金曜日売上
合計	¥360,689	

【支出】

項目	金額	予算	予算との差額	備考
会場費	¥3,667	¥15,000	11,333	※市内施設値上げ
研修費	¥3,115	¥150,000	-6,381	文化活動講師料等
松本ヒロさんライブ支出	¥153,266			出演料・広告費他
通信費	¥89,250	¥60,000	-29,250	会報等郵送費
資料費	¥7,730	¥10,000	2,270	紙代・印刷費用
事務費	¥6,237	¥5,000	-1,237	封筒等事務用品
合計	¥263,265		-23,265	

※松戸市社会教育認定団体の会場費が今年度より従来の3割負担から移行措置として5割負担でした。(2005年度から7割負担)

【収支】 360,689円 - 263,265円 = 97,424円
(2005年度繰越金)

監査の結果、上記の通り相違ありません

会計監査

大久保ヒロ子
鎌瀬容子

お～い図書館 2005年度予算案 2005年1月～12月

【収入】

項目	金額	備考
繰越金	¥97,424	前年度繰越金
会費	¥60,000	60人×1,000円
合計	¥157,424	

【支出】

項目	金額	前年度予算	備考
会場費	¥10,000	¥15,000	※1
研修費	¥20,000	¥150,000	文化活動講師料等
通信費	¥88,000	¥60,000	※2会報等郵送費 220人*80円*年5回
資料費	¥10,000	¥10,000	紙代・印刷費用
事務費	¥5,000	¥5,000	封筒等事務用品
予備費	¥24,424	¥23,249	
合計	¥157,424	¥263,249	

(補足)

※1松戸市社会教育認定団体の会場費が2005年度より2004年度の5割負担から7割負担への変更するとしています。

※2市内への送付を低価格で行なえる方法を調査中です。

(↓前からのつづき)

市議会でも漸く、この件についての議論が交されるようになりました。私達も、今後の動きに注目していきたいと思います。

2004年度の最大のイベントは、なんとといっても「松元ヒロ・ソコ・ライブ」の開催でした。この取組の中で私達は、元氣と共に「心」を頂く事ができました。松元ヒロさんをはじめ、関わってくれたすべての皆様に感謝申し上げます。

二年目となった「憲法記念日の集い」や「草の乱」上映会の共催を通して、市内の様々なグループと連携できた事も、大変有意義な事に思えます。

反省点としては、活動計画に入っていた講演会が開催できなかった事です。今年度は、ぜひ実現させたいと思います。

今年度も、急がず、たゆまず、

活動を続けたいと思っております。

どうぞよろしくお願い致します。

青木 和子



映画「草の乱」

神山征二郎監督の代表的な作品は「草の乱」の他、「月光の夏」「ひめゆりの塔」「郡上一揆」などがあります。

2001年の「郡上一揆」に続いて、秩父事件を取り上げた「草の乱」上映会共催に参加しました。

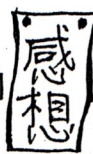
「秩父事件」とは？

明治時代、世界恐慌による生糸輸出の減少と政府のデフレ政

策で、高利貸しからの借金をかかえた困窮農民が激増した。

困民党を組織した農民達は、自由民権運動をすすめる自由党員と連携し、「高利貸説諭誓願運動」を展開したが、明るい展望は見出せず、ついに武装蜂起を決意した。1884年(明治17年)、困民党は、厳しい自己規制を定めた「軍律五ヶ条」と組織的な指揮系統のもとに、政府に叛旗を翻した。

それに対して明治政府は、警官・憲兵・鎮台兵を派遣し、約10日間でこれを鎮圧。関係者は、死刑を含む厳しい処分を受けた。



「草の乱」を観て

吉原 里絵

映画終了後、音楽とともに沢山の出演者の名前が流れていくのを見ながら、私は農民への激しい感情が涙となっていた。

それでいて、頭では「男つてのは、ほんつと勝手なんだよな」と考えていた。蜂起の結果が不毛なたたかひになった事で、よりその考えが強く残っていた。

私が女である事、また映画の中で女達があつたのに強く印象づけられるように描かれていたから、川原で子守りをする娘、出発を見送る女の、言葉より重い表情、伝蔵の出陣を見送った学校帰りの少女。桑の葉を育てるのも糸繰りも一家の仕事、苦しいのも一緒。なのになぜ、男達だけが悲痛な思いを背負って、たたかひに挑まなくてはならなかつたのか。

それほど生活が切迫していたのは伝わってきたが、同時に明治時代の平等の限界もあつたのではないかと思つた。

武器を持って男達だけでたたかうのではなく、より弱い者である女・子供・年寄と怒りを共有し行

動できれば、また違つ方法もあつたんじゃないか。

これは、私が秩父事件の時代より女性の生き方の選択が増えた時代に生きているから思つたのかもしれない。でも、秩父の女達だつて男達と違つ事を考えていたはずだろうと、じくじく思つていた。

そんな時、図書館の棚に『秩父事件の女たち』(保高みさ子著講談社刊)と、私にどんぴしゃなタイトルを見つけた。

事件後の渦中にいた女達の、その後の生き方を、小説として描いていた。女達のたたかひは事件後にあつたのだと感じた。

男達は、不正を正し正義を勝ち取るという大義を抱き、勝利を信じ、信じていなくても命は惜しまずたたかひに身を投じた。でも残された「女・子供・年寄

はどうすりやいいのさ」なのだ。日々たたかひは続いていったのだ。

そして、その一つの結果としてこの映画や小説があるのだと思つた。秩父事件に関わり、残された人達が政府や世間からの非情な仕打のおかげで、事件を語り、記して伝える事でたたかひ続け、百二十年という歳月を経て、私達の目の前で真実を伝えようとする。

今の生きている私に何ができるのか考えていると、秩父の民衆はまだ敗北したのではないと感じる。私ができる怒りの方法とは、あきらめない事である。

12月3日、秩父夜まつり大祭に行けない事を惜やみ、来年は行くぞ、と決意しつづ記す。

二〇〇四年十二月



おしづき館

No.99

発行 おしづき館
代表 青木和子
松本牧の原 1047
416
TEL 047 311-0886



一月十五日(土) 市民会館202室で
第十二回総会を開きました。

二〇〇四年度 活動報告

- 定例会
- 会報発行
- 行政・市議会への働きかけ
- 市民への働きかけ
- 図書館見学
- 近隣グループとの交流
- 講演会・勉強会
- 文化活動

以上のような計画のもとに、

左記の活動をしました。

- 一月十七日(土) 第11回総会
- 二月二十四日(火)

社会教育認定団体認定手続

- 二月二十八日(土) 定例会

「憲法記念日の集い」・映画「草の乱」上映会の共催について

「松元ヒロ・ソロ・ライブ」(独自企画)開催について
図書館費予算内訳について

- 三月一日(月)～三日(水)

市議会議員訪問

- 三月九日(火)～十四日(日)

「秩父の版画と写真展」共催(文化ホール)・「草の乱」上映に向けての事前学習

- 三月二十七日(土) 定例会

「憲法記念日の集い」について
「松元ヒロ・ライブ」について
図書館見学について

市議会議員訪問の報告

- 四月十七日(土) 定例会

「松元ヒロ・ライブ」準備会
浦安・松戸の図書館見学について

- 五月三日(月・祝)

「憲法記念日の集い」天木直人氏講演会(市民会館ホール)45団体共催

- 五月八日(土)

浦安・松戸の図書館見学
参加：大人28名(松戸市議3名・近隣の市議3名を含む)と、子供10数名

- 五月十五日(土) 定例会

図書館見学の報告

- 五月二十三日(日)

「松元ヒロ・ライブ」準備会
「松元ヒロ・ソロ・ライブ」

参加14名

○6月19日(土) 定例会

「松元ヒロ・ソロ・ライブ」
反省会

NHK-TV「視点論点」①図書館が日本を救う②図書館から地域へ(常世田良氏)ビデオ上映

○7月24日(出) 定例会

「図書館友の会全国連絡会」について

NHK-TV「図書館をもっと身近に」ディスカバー図書館(パネリストとして、鳥取県知事片山善博氏・浦安市教育委員会常世田良氏等が参加)ビデオ上映

○9月18日(土) 定例会

9月市議会決算審査特別委員会傍聴の報告

指定管理者制度などについて
「草の乱」上映会について

○10月16日(土) 定例会

国立国際子ども図書館見学について

○11月7日(日)

「古文書とは？」(伊藤和子さん)

○11月7日(日)

「草の乱」上映会開催 (市民会館ホール)

○11月11日(木)

国立国際子ども図書館見学 建物 ガイドツアー

参加3名

○11月16日(火)

国立国際子ども図書館見学 図書館ガイドツアー

参加2名

○12月18日(土) 定例会

12月市議会傍聴の報告
国立国際子ども図書館見学の報告

「素語ー金子みすずの詩」(吉原里絵さん)

○会報発行

90号(2月2日)

第11回総会報告

91号(3月20日)

アンケート結果報告

92号(6月10日)

浦安・松戸の図書館見学記

93号(7月15日)

図書館費総額および図書等購入費・おはなしキャラバン関係費の年度別推移

県内公立図書館サービス指標

投稿「松戸の図書館に思う事」

94号(8月15日)

「松元ヒロ・ソロ・ライブ」感想集

95号(11月25日)

各地の図書館見聞記

「図書館友の会全国連絡会」設立について

96号(11月30日)

決算審査特別委員会傍聴報告
講演会「教育基本法と図書館」



アンケートより

97号(12月10日)

国立国際子ども図書館見学記

98号(12月25日)

「古文書を愉しむ」(伊藤和子さん)

投稿「ライラクからの報告」

「雑感」

この他、随時、市議会本会議・

教育経済常任委員会の傍聴、図書

館など担当部署訪問、市議会・行

政・市民・近隣グループなどへの

会報配布・送付、事務局会議を行

いました。

二〇〇五年度活動計画

○行政・市議会への働きかけ

○市民への働きかけ

○図書館見学

○近隣グループとの交流

○講演会・勉強会

○文化活動

○市内他団体とのイベント共催

○会報発行

○定例会

第三土曜日PM.2時〜5時

会場 市民会館・市民センター

会費 年間千円

事務局 代表 青木和子

副代表 西山怜子

書記 浅山早智子

会計 吉原里絵

菊地志枝

会計監査 大久保ヒロ子

鎌瀬容子

現在、「おいしい図書館」の会員

数は90名、会報は約30部を送付・

配布しています。図書館に関心を

持っておられる方々が、私達の地

味な活動にも目を向けてくださる

事を大変有難く思います。

2004年度は、図書館費内訳で、お

はなしキャラバン関係費がついに

図書等購入費を上回ってしまっ

たという大ショックのうちに始ま

りました。

会報93号に折れ線グラフで示

した通り、この10年間図書等購入費

がほぼ横這いだっただのに対し、キ

ャラバン関係費は、50%以上増加

しています。

同時期の松戸市役所各部署にお

ける経費の伸び率は、平均4.2%(

12月市議会本会議での名木議員の

質問に対する財務本部長の答弁)

ですから、キャラバン関係費の伸

び率は異常としか思えません。(↓後へつづく)



お～い図書館 2004年度会計報告 2004年1月～12月

【収入】

項目	金額	備考
繰越金	¥133,249	2003年度繰越金
会費・寄付	¥80,240	会員67名
松本ヒロさんライブ収入	¥147,200	チケット売上、週刊金曜日売上
合計	¥360,689	

【支出】

項目	金額	予算	予算との差額	備考
会場費	¥3,667	¥15,000	11,333	※市内施設値上げ
研修費	¥3,115	¥150,000	-6,381	文化活動講師料等
松本ヒロさんライブ支出	¥153,266			出演料・広告費他
通信費	¥89,250	¥60,000	-29,250	会報等郵送費
資料費	¥7,730	¥10,000	2,270	紙代・印刷費用
事務費	¥6,237	¥5,000	-1,237	封筒等事務用品
合計	¥263,265		-23,265	

※松戸市社会教育認定団体の会場費が今年度より従来の3割負担から移行措置として5割負担でした。(2005年度から7割負担)

【収支】 360,689円 - 263,265円 = 97,424円
(2005年度繰越金)

監査の結果、上記の通り相違ありません

会計監査

大久保ヒロ子
鎌瀬容子

お～い図書館 2005年度予算案 2005年1月～12月

【収入】

項目	金額	備考
繰越金	¥97,424	前年度繰越金
会費	¥60,000	60人×1,000円
合計	¥157,424	

【支出】

項目	金額	前年度予算	備考
会場費	¥10,000	¥15,000	※1
研修費	¥20,000	¥150,000	文化活動講師料等
通信費	¥88,000	¥60,000	※2会報等郵送費 220人*80円*年5回
資料費	¥10,000	¥10,000	紙代・印刷費用
事務費	¥5,000	¥5,000	封筒等事務用品
予備費	¥24,424	¥23,249	
合計	¥157,424	¥263,249	

(補足)

※1松戸市社会教育認定団体の会場費が2005年度より2004年度の5割負担から7割負担への変更するとしています。

※2市内への送付を低価格で行なえる方法を調査中です。

(↓前からのつづき)

市議会でも漸く、この件についての議論が交されるようになりました。私達も、今後の動きに注目していききたいと思えます。

2004年度の最大のイベントは、なんとといっても「松元ヒロ・ソコ・ライブル」の開催でした。この取組の中で私達は、元氣と共に「心」を頂く事ができました。松元ヒロさんをはじめ、関わってくれたすべての皆様に感謝申し上げます。

二年目となった「憲法記念日の集い」や「草の乱」上映会の共催を通して、市内の様々なグループと連携できた事も、大変有意義な事に思えます。

反省点としては、活動計画に入っていた講演会が開催できなかった事です。今年度は、ぜひ実現させたいと思えます。

今年度も、急がず、たゆまず、

活動を続けたいと思っております。

どうぞよろしくお願い致します。

青木 和子



映画「草の乱」

神山征二郎監督の代表的な作品は「草の乱」の他、「月光の夏」「ひめゆりの塔」「郡上一揆」などがあります。

2001年の「郡上一揆」に続いて、秩父事件を取り上げた「草の乱」上映会共催に参加しました。

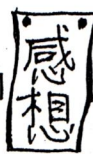
「秩父事件」とは？

明治時代、世界恐慌による生糸輸出の減少と政府のデフレ政

策で、高利貸しからの借金をかかえた困窮農民が激増した。

困民党を組織した農民達は、自由民権運動をすすめる自由党員と連携し、「高利貸説諭誓願運動」を展開したが、明るい展望は見出せず、ついに武装蜂起を決意した。1884年(明治17年)、困民党は、厳しい自己規制を定めた「軍律五ヶ条」と組織的な指揮系統のもとに、政府に叛旗を翻した。

それに対して明治政府は、警官・憲兵・鎮台兵を派遣し、約10日間でこれを鎮圧。関係者は、死刑を含む厳しい処分を受けた。



「草の乱」を観て

吉原 里絵

映画終了後、音楽とともに沢山の出演者の名前が流れていくのを見ながら、私は農民への激しい感情が涙となっていた。

それでいて、頭では「男つてのは、ほんつと勝手なんだよな」と考えていた。蜂起の結果が不毛なただかいいになった事で、よりその考えが強く残っていた。

私が女である事、また映画の中で女達がわずかなのに強く印象づけられるように描かれていたから、川原で子守りをする娘、出発を見送る女の、言葉より重い表情、伝蔵の出陣を見送った学校帰りの少女。桑の葉を育てるのも糸繰りも一家の仕事、苦しいのも一緒。なのになぜ、男達だけが悲痛な思いを背負って、ただかいいに挑まなくてはならなかったのか。

それほど生活が切迫していたのは伝わってきたが、同時に明治時代の平等の限界もあったのではなにかと思つた。

武器を持って男達だけでたたかうのではなく、より弱い者である女・子供・年寄と怒りを共有し行

動できれば、また違つ方法もあつたんじゃないか。

これは、私が秩父事件の時代より女性の生き方の選択が増えた時代に生きているから思つたのかもしれない。でも、秩父の女達だつて男達と違つ事を考えていたはずだろうと、じくじく思つていた。

そんな時、図書館の棚に『秩父事件の女たち』(保高みさ子著講談社刊)と、私にどんぴしゃなタイトルを見つけた。

事件後の渦中にいた女達の、その後の生き方を、小説として描いていた。女達のただかいいは事件後にあつたのだと感じた。

男達は、不正を正し正義を勝ち取るという大義を抱き、勝利を信じ、信じていなくても命は惜しまずただかいいに身を投じた。でも残された「女・子供・年寄

はどうすりやいいのさ」なのだ。日々ただかいいは続いていたのだ。

そして、その一つの結果としてこの映画や小説があるのだと思つた。秩父事件に関わり、残された人達が政府や世間からの非情な仕打のおかげで、事件を語り、記して伝える事でただかいい続け、百二十年という歳月を経て、私達の目の前で真実を伝えようとする。

今の生きている私に何ができるのか考えていると、秩父の民衆はまだ敗北したのではないと感じる。私ができる怒りの方法とは、あきらめない事である。

12月3日、秩父夜まつり大祭に行けない事を惜やみ、来年は行くぞ、と決意しつづ記す。

二〇〇四年十二月

